

●技術情報

Q&A

[4] 太陽熱・石灰窒素法

Q4-2 「太陽熱・石灰窒素法」を実施する上で気をつける点を教えてください。また、経済性はどうなっていますか？

A4-2 「太陽熱・石灰窒素法」の要点は Q4-1 のとおりですが、次の諸点にも注意して下さい。

- ①有機物と腐熟促進のため石灰窒素を必ず施用する。
- ②支柱ぎわと周辺部は地温が上がりにくいので土をなかに寄せマルチをていねいにする。
- ③石灰窒素や土ぼこりが立たない程度に散水し、土と有機物を湿らせる。
- ④小畦を立て土の表面積を多くし、熱がよく伝わるようにする。
- ⑤石灰窒素が施設の外へ飛散しないようにする。とくに水稻の出穂期は注意する。
- ⑥ハウス内の気温は 60 ～ 70℃に上がるので、精密機械や熱に弱い樹脂製品には覆いをかぶせ断熱するか取り外して施設外に出しておく。
- ⑦基肥の窒素施肥量は以下の点に注意する。
実施後、30 日ぐらい経ってから植え付けるときは基準量でよいが、30 日以前に植え付けるときは基肥を控えめにする。ECの測定など、土壌診断により基肥量を決めることも大切です。
- ⑧薬剤処理にくらべ経費が節減できる。
- ⑨表 4-3 の病害が熱により防除できる。

表 4-4 太陽熱・石灰窒素法と薬剤処理法の比較例 (円/10a)

	太陽熱・石灰窒素法	薬 剤 (クロールピクリンなど)
資材費の目安 (平成27年4月)	15,000 円(100 kg)	47,000 円(40L)
作業性	散布しやすくマルチ耕うんのみ	飛散するので手間かかる。マルチガス抜き2回耕うんの手間
理化学性	有機物腐熟促進	
生物性	進土壌環境の改善	
除草効果	雑草発生しない	発生する
刺激性	感じない	刺激あり
環境に あたえる影響	周辺の人に悪臭など嫌な思いを させない(健康に影響しない)	悪臭の発生が多く健康にも悪い。 大気汚染の原因になる場合がある。